

イベントの使い方

綾田 早希

「イベントを目的にしない」。NPJ 〇法人の町にもあきないプロジェクトの原さんはそうおっしゃった。正直、私の一番の感想は「どういうことか」であった。高校生の私にとつてイベントというのは最も重要で最も楽しいものだと思っただけからだ。それから原さんはどうおっしゃった。

人と人とのつながり

岡田 瑛加

先日、私は学校の合宿で、長野県諏訪地方を訪れた。この合宿では大きく分けて「自然を感じる活動」と「地域の方と触れ合う活動」の二つを行った。

自然を感じる活動では、植物、気候、動物の三つが密接に関わり合っており、その絶妙なバランスが保たれているのはいくつもの点で知った。地域の方と触れ合う活動では、御

小さな店の高きプライド

一木万由子

「イベントは一過性なんです。ね。その時だけ街が盛り上がるってもしようがないんです。一番大事なのは信用だから、イベントは出合いのきっかけ」

まさに目から鱗であった。私はイベントに全力を尽くした後のことを考えたことがあったのだろうか。確かに学校のイベントは楽しいだけで良いかも知れない。しかし、これからずっと続いていく商店街ではそれではないのだ。私はこの講演で、大事なことを学べたと思う。

地方創生のモデル

遠藤久美香

田町商店街でのインタビューを通して、お店の方々の温かい心、他を思いやる気持ちを感ずる場面がたくさんあった。また、どのお店でも共通して言われた言葉が印象的だった。

「昔よりも繁盛しているわけではありませんが、昔より商店街での『人と人とのつながり』が強くなったので、それは本当に嬉しいことです」

この御田町商店街は温かい雰囲気と、人々の優しさが詰まった町だ。是非、一人でも多くの人にこの諏訪地方を訪れ、町の魅力や自然の豊かさを感じてほしい。そして、私自身もまた行きたいと思う。

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ②

「第一印象はかわいらしく、優しい」というものだった。お話を聞かされたとき、創業88年、現在は3代目だといふ。最も印象深かった言葉は「スパーで売っているものは訳が違ふ。おばあさんの小さく、かわいらしい印象とはかけ離れたプライドの高い言葉だった。御田町商店街が主役だとしたら脇役の中央通り。その中の小さな店の高きプライドに心を打たれた。そういえば、なぜ店名が「ひだや」なのか聞いていなかった。また訪れて、聞いてみたいと思った。

諏訪の活気とは

矢部 琴子

諏訪での生活は、まさにこのような生活であつたように感じている。決して都会のような活気に満ちていない。活気はないのに、諏訪ならではの、独特の活気によって私たちの短い三日間の生活は十分に満喫された。なんと不思議なことだろう。いつものように生活しているはずなのに心温まる優しい気持ちになれた気がしました。きっとそれは、地元の方々が作り上げてきた雰囲気作りの努力の賜のようなものでしょうか。

霧ヶ峰と縄文時代

富田 朝

た。霧ヶ峰という一つの場所は、縄文時代には人々の住処として、鎌倉時代には祭りの舞台として、そして戦後にも採草地として、人々にとって大切な場所であり続けた。そして現代は観光地となっている。同じ土地であるのに関わらず、時代を超えて人の暮らしに適した姿に変化していった霧ヶ峰からは平成の今でしか感じ取れない風情が感じられた。

平成を生きた私たちが先人たちと同じように、霧ヶ峰と向き合っていくためには何が必要か。私たちは次の時代へ自然のバトンパスをするという使命がある。

訪れる前後、復活物語の立役者の一人、NPJ 〇法人の町にもあきないプロジェクトの原雅廣氏のお話を聞いた。その中で特に印象に残ったのは、次世代の担い手作りだ。

5月にお茶の水女子大学附属高校の生徒たちが学年合宿で諏訪地方を訪れた。生徒たちから寄せられた投稿を紹介する。